

女の会通信

- 特集「女たちの明日のために」
- シリーズ「ミュンヘンの女たち その2」
- 男女雇用機会均等法
- 老人保険法の改悪
- ユーザーブレイク

1986.4.25

女たちの明日のために

結婚生活をしている女たちは、今どんな状況にあるのか。その中で何を望み、何に期待しているのか……というテーマで五人の女たちと話し合いました。

その中で見えてきたものは、残念ながら決して明るくものではありませんでした。限りなく「家庭内離婚」に近いものもありました。人間が生きてゆくうえでの、仕事とか趣味などでは埋めきれない「異性」への甘さを求める気持を、結婚という形態はゆげめてしまうものなのでしょうか。

★気がつけば「結婚」

A 結婚する時って、自然の流れのようなものか
勝つかなあ。

B いっしょにいたいなあ……と二人とも思った
から結婚した。同棲でもよかったんだけど、あまり
波風をたてないほうがいいかなあ……という感じ
で。

C 私も福岡でベッタリといっしょにいてね。離
なかつたら、そういう関係が続いていたかもしれ

なかつたけど。彼が長崎に就職して、やっぱり、
いっしょにいたいというので自然と結婚という感
じになった。

A 二人でいたいとなれば、戸籍のうえのことは
別として、やはりいっしょに住むということし
ないよね。

C 近くとか、隣りとか(笑笑)
D 隣りは不経済よね (笑笑)

A 話をしたい時だけ会うわけじゃないでしょう。
何かものを食べたりにか、生活の部分づく、ついで
くるものね。

E 私は結婚発情期説をとるんだけど、性的な意
味だけではなく、あらゆる面でダーツをつっぱし
るものがある時というの……。

D 私は家族で生活するのが普通だと思ったのよ
ね。家族といっそも、親とか兄弟姉妹というのは
離れてしまうわけだから、結婚以外に家族との生
活というのはないと思っていたものね。そこで、
自分の絆というのは、結婚して自分の家族だけし
かないと思つた。それがあって自然にしたのね。
むづかしく考えたら、結婚なんてできないもの。

C この先どうなるかわからないし、別れるよ
うな事になるかもしれないけど、やはり、今はと
にせよいっしょにいたいというので結婚したのね。
A 結婚してみても、初めて気がつく社会の矛盾も

あるよね。

B 結婚してみても、家族制度というのが、自分で根づよいし、困りにもすぐ根づよいというのがわかった。

A 今まで無定見に生きてきたら、とんでもないところにはまり込んでいたということはあるよね。独身の一人しか見えないこともある。税金が高いとか、市営住宅に長い間入れなかったとか……そういうことは気がつかないね。どんな生き方でも認める社会じゃないものね、今の社会は。

D 今は結婚するのがあたりまえだものね。社会もそれをあたりまえとして、政治も出発しているわね。

A 結婚の中で、女がどのように取り込まれていったか、自分自身どう取り込まれていったか考えないと駄目ね。結婚とか、子供とかを意識的に考えて、一人で生きようとする人が増えるのも大切なことじゃないかと思う時もある。

★気分はもう「家庭内離婚」

C 私の結婚はもう破滅していると言うか、もう何も期待しないし、ただ生活しているというか……「家庭内離婚」と言われれば、そういう感じで。だからと言って離婚しようという気はない。してもいいとは思っているけど……。

E 私の夫は全共闘世代なんだけど、この年代の男が中年になつた時、離婚が増えるんじゃないか、離婚とはいかないまでも「家庭内離婚」が増えるんじゃないかと思つていた。友人に聞いた時、本を読んでもそういう傾向があらわれてきており、ヤッぱりと思つた。

あの時代、対国家・対資本に対しては闘つたけど、女に対する意識は昔のままであつたというツケが回ってきているようだ。うちの場合同様に「家庭内離婚」とはいかないまでも、仕事や男同士で何かするのに夢中で、家庭とか妻をおきざりにしてしまつている。

D うちも全く同じ、昔から感じていた。口ではカッコいいことを言つても、本質は昔の男と変わつていない。彼の弟なんてずつと若いけどもつとひどい。運動をやつてる、やつてないに関係なく自分がどれだけ女について考えているか……ということだろうと思う。まあ、ホーズだけでも全共闘世代はまだましかと思うけど。

A だからよけいに腹が立つことがあるのよ。わかつたことを言いながら、実生活・自分の事になるとひっくり返るんだから。

D うちも家庭と職場が同じということもあるけど、日曜なのへ何なのかわからない。本は全部医局に持つて行つており、何かあるとすぐに行かざる

るを得ない感じ。その他雑用とか、気にする患者さんを見に行ったり……。労働時間はどうなっているのか、何のために労働運動をしてきたのか、少しも身についてないというか、もう、仕事に興味の人はどうぞ？という感じにしている。

E うちも全くそう。日曜、祭日も研究室に行つて家に居たことがない。早く言えば、自分の仕事をしたいわけ。そして男同士で遊ぶのね。

D うちの周囲もみんな男同士で遊んでるみたい。女は入ってないみたい。

C 休みの時、家に居る時もあるけど、釣に行ったり、ゴルフに行ったりする。こっちも子供がいるから出たい時もある。家庭サーブスを毎週は要求したいけど、たまにはドライブに行ったりしたい。私と子供だけ残っているのはおもしろくない。

★男と女の「生活の重さ」の違い

D 私は、結婚する時のエネルギー、結婚を継続するエネルギー、離婚する時のエネルギーを考えた場合、別れる時のエネルギーはすごいと思う。結婚する時は二人のことだけでいいんだけど、別れる時には、その困りには付属品がいっぱいできてるから。それを、ひとつひとつ整理してね……。それに、これにもこりずに再婚したけど、単身赴任による別居もしたけど、どうしても私の方に生活の重み

かかかってくるでしょう。子供の手が離れて、そしてまた同居して、今の状態は少し良くなったし相手のことも認めるようになった。

A 私も昔は顔を見るのも嫌な時期があった。もうすぐ帰って来ると思うとゾツとした。その時、私は子供のトラブルで疲れ切っていたのに、相手は何事も無いように帰ってくる。相手は子供を日常的に見ていないから深刻な事態がわかっておらず、話をしてもピンとこないのに腹が立った。こんな思いをしながら暮らすのなら、別れた方がすつといいと思っていた。

D 生活を見ていないというのわからず、すぐに女はくどいと言われるけど、日常的にかかわっているから、こちらとしては言わざるを得ないという面があるのよね。自分が見て行くてわからず、女がグチみたいに聞き流されると本当に腹が立つ。B 私は子供がいらないから、子供とのかかわりでどうのこうのと言うことはないんだけど……。

近くに彼の両親がいるのね。彼は組合の関係で帰宅が遅く、夕食は私と両親の三人で食べる事が多かったんだけど。舅が脳軟化症でボケが始まっており、元来わが子でな人だったことも手伝って、食事時はおおごとをわけ。私は毎日見ているから、今日はこんなことを口走ったとか、今日は

テレビにむかってこんなことを言っていたとか、彼に言うんだけと。彼は見ていないものだから病氣だから仕方ないよというふうに言つて、そのことか、私や姑にこんな影響を与えていたかについてではわかつていなかった。姑がブルモンの調子がおかしくなったり、入院したり、いろんなことかあり、結局、私は家を出たわけなんだけど。その中で彼と話し合ううちに、私の両親の家での立場をわかってくれたみたい。

その時は離婚を考えてたんだけど、親のこととか、職場のこととかで踏み切れなくて、もう一度やり直すことになった。その時、離婚というもののは、ものすごいエネルギーがいるものかと思つた。

E 私は親もくつついてないし、子供もいないし全く二人の問題。前はものわがりのいい奥さんだつたと思ふけど、今から考えると我慢していたと思う。そのひきかかになつたのは外国生活だつたと思う。二人で協力しなければやつて行けないことか多い中で、密度の濃い結婚生活をしてきたのに、帰国したら、亭主をまた仕事と男に取られてしまつた。(笑) 少々ノイローセ気味になり、もう嫌なことは嫌だと言うようにしようか決心した。私は二人での生活を充実させたのには。まあ、社会的な下地というものもある。(うけれども、

帰国してから腹の立つことばかり。

D 本当にそうね。どこに行く時も、今迄はじゃま者みたいになされてた。今度、対馬に来てみると少し変わつてた。いつしよに行こうか言えはそれはそれなりに認めている感じ。今は仕事を家庭訪問なんかもいっしょに行つていて、そういうこともあり、仕事の協力者として認めてくれ始めたみたい。

C うちの場合は、子供かできて相手も変わったし、私も変わつたし、夫婦の関係は悪くなつたね。前はもつと話かしたいとか、すこく求めていた。しつこく帰るとかも待つていたんだけど、やはり、振り向いてくれないというか。;

今はもう無関心というか、興味がないというか、腹も立たない変わりに期待もしないというところかな。空気のような存在。愛か醒めたということかもしれない。私も自分で仕事を始めて、生きがいというふうなものも出来たし。;

A うちはお茶飲友達かなあ。(笑) 今からそうたとしたら、後はどうなるのかしら。

A 人生を重ね合わせて生きたい

★ うちの子供も手のかかる時期か終わつて、何かやろうとすればやれるというところはある。夫が職場で行き詰つていて、地域とかで、家

族も含めてやれることはいかというイメージを持っていていい。

B そのへんのところを少し変わってきたんじゃない。今まで職場の中で、家族から離れて一人でやることに生きかいて感じていたんだらうけど、今度ほ地域を見た時、家族といっしょにやらんといかんということ、家庭に目が向いてきたんじゃないかしら。

A ただ、きつかけが組合の停滞から来ていて、次に地域に目を向けると、たまたま家族がいたって感じでは困るのよね。そもそも考え方それ事態は家族から出発してないもんね。彼自身の精神構造は変わっていないからね。

E 男はたいたいそうね。自分が行き詰まった時に家庭に帰って来るのよね。

A 職場でダメなものか、果たして地域でやって行けるかしらね。もつと多様な人が集まっているんだから。

D 私は対馬で現実に地域医療にかかわって、家庭訪問なんかでは自分の思いとぶりにやっている。今まで誰もやっていない分野だから、住民の人に喜んでもらっていると思う。自分も生きていくって感じかして、対馬に行って良かったと思っている。

C すごく年とつてから、旦那が自分の帰るとこ

ろほここしがないという感じで家庭を見るのかしらねえ。

E 長い開放つたらかされて、年とつてから帰って来ても、もう知りませんという感じね。(笑) ある程度、いろんなものを築しむ年代というのに限られているんじゃない。年とつてから遊んでも仕方ない部分はあつたよね。

B 私は今二人で遊ぶたいし、遊んでいる、旅行なんかにもよく行くしね。それとは別に、先を見るとき、年とつても二人でやってゆけるものを見つけたという気持ちがある。仕事なんて停年があるし、停年まで働くかどうかもわからないし。私は、エっほいもの、陶芸とか園芸とか織物なんかの勉強がしてみたい。

この前、女の会の何人が話をしている、年とつたら外海あたりに家を建てて、みんなを助け合つて暮らそうという話が出たけど、そういうなかで、自分も役割を果たしながら生きてゆけるために、自分の中で手に職をつけるとか、人間的にも豊かになつておきたいと思っている。

ミュンヘンの女たち 〔2〕

F. N.

先号で紹介したJ.S.さんは、日本人にはあまり見かけないタイプの人でしょう。(自分でよい子という日本名をつけている) 自らの仕事や利害に関係なく、全くの趣味で日本語を勉強し、日本を旅行し、日本人とつき合っているのです。それが決していい加減なものではなく、その打ち込み方、努力にはいつも頭の下がる思いがしたものです。(日本語学科の学生たちは、私たちにドイツ語の手紙をよこしますか、彼女はいつも日本語で書いてくれるのです。)

J.S.さんの生活を見て、家事はどうしているのか疑問に思われるでしょう。私は実際に生活してみても気がついたのですが、家事に削ぐ時間というものか日本に較べてごく短かくてすむのです。

掃除、洗濯、炊事が毎日主婦の肩にかかってくるのですが、掃除は掃除機をかけてカウ拭きするぐらい。洗濯は全自動で乾燥までやってしまう。日本ではいちばん時間をかける料理も簡単なものしか家庭ではつくらない。後片づけも皿洗機があるとまったく場所です。

ちなみに食生活についていいますと、朝はコーヒーズンメルという丸パン(バー)・ジャムを

ゴツテリのせる)ゆで玉子ぐらい。昼はメインで肉を焼くか煮込むかしたもの。ジャガ芋、野菜など。夜はとつても簡単に、黒パンの薄切りにハムなどをはさんだもので、ほとんど毎日この繰り返しと言つてもいいでしょう。

家庭によく人を招きますが、その時も頑張って料理することもなく、あつけないほど簡単なものしか出てきません。それよりも、主婦も含めて楽しく話をすることを大切にしているのです。

J.S.さんに話を聞いても、週三回、通いの掃除婦さんに来てもらうほかは、全部自分で家事をこなしているとのことでした。台所も機能的に電化されていて、オーブンに入れた肉なども自動的に焼きあがっているとのことでした。

そして、何よりも日本と違うのは夫のありようです。仕事が終わって、男同士でいっぱい、などというのには皆無と言ってよく、家庭生活をとつても大切にしています。平均的サラリーマンは夕方五時頃には帰宅し、よく妻を手伝います。

このような背景もあり、女性は自由時間(特に夜間)を有効に使っています。交際に興味に、として学習に。特に各地で盛んなのは成人学校です。(フオルクス・ホーホシューレ) 資格を取るための専門的なものから、料理教室、ダンス教室までもあり、その数は驚くべきほどです。毎年案内

書がキオスクなどで売られるのですが、電話帳ほどの厚さがありました。

私達夫婦はミュンヘン最後の夜、J.ぶさんの家に泊めてもらったのです。郊外の静かな住宅街の中にある三階建の大きな家でした。夫と二人で、プールもあるかな？ まさか！ なんて内緒話をしていたのでした。……。ありがとうございました、大きなプールが広い庭の中に。彼女に、私達の長崎の住居はあなたのプールよりも狭いんですよと言うと、それは狭い家が好きです。……なんて返事されてしまい思わず苦笑いをしたものでした。

住宅の事は、帰国してみると本当にうらやましく思い出されます。ガッシリした造り、二重窓による防音、年中一定温度を保っているヒーティング、いつもお湯が出る暮らし、広々とした居間、寝室……。これは何もぜいたくな話ではなく、ごく庶民レベルでの事なのです。友人達がこれから我家にも遊びに来る事が多くなるわけですが、どこに泊めてあげられるのか……と部屋をながめ回しては溜息をついています。

ハ日本語の天才！ K.H.さん

前号で書いたように、いっしょに交換教授をしていた日本人同僚Oさんがいました。彼は三人の子持ちで、少し郊外の一戸建を借りて住んでいま

した。(西ドイツでは居住している子供に児童手当が支給される。外国人にも適用され、Oさんも三百六十マルク・約三万円もらっていた)

長男が小学校三年生で、地元の学校に通っていたのですが、あたりまえの事ながらドイツ語がさっぱり理解できず、家庭教師をつけるように学校から注意を受けていました。

ある日、帰宅途中のバスの中で、Oさんは妙齡の美人の足を踏んでしまったのですが、偶然にもそれが日本語を話せるミュンヘン大学経営学科の学生、K.H.さんだったのです。彼女はそれが縁でOさん宅の家庭教師になり、そして、ごく短期間で、大村市の教材会社に交換留学生で来ていたということがわかり、さっそく私達夫婦とのつき合ひも始まったのでした。

彼女は先天的に語学力に優れていたのでしょうか。その当時、ひらがなも満足に読み書きができなかったのにもかかわらず、日本語学科の学生以上に、流ちょうに日本語を話したのです。

(以下次号)

均等法の禁止等法

四月から男女雇用機会均等法が施行されました。この均等法の内容の一部をみると、

募集・採用

男女に均等な機会を与えるとしていますが、入りの部分を事業主の努力義務としているので、雇用における差別をなくす強制力はないも同然です。例えば募集を「男口求む」としていても結果として女子の採用がゼロでも、努力したということとを立証できればよいのです。また、募集を総合取と一般取に分けるコース制や、入社案内で「四半制大卒向け」と「短大卒向け」に分けておくこともでき、今まで以上に女子を補助的労働に固定していくことが考えられます。労働省の調査においても大卒を採用する企業のうち男口の採用条件が同一なのは十五%にすぎず、紀ノ国屋書店の有名な「ブス・チビ・カッペル」は言語道断としても「親元通勤に限る」「既婚者は不採用」等々という人格を無視した採用条件が公然とまかり通っています。そのうえ、口子はパート・準職員・臨時雇用等々、雇用形態・身分なども差別的であり、このことば他の雇用条件に影響している中、事業主の努力義務でいほどの実効性をもつ疑問と

いわざるをえません。

教育訓練

基礎的な教育訓練について男女差別的な取扱いの禁止となっています。しかし、新入社員に対する研修のみ男女に差をつけなければよいという解釈ができあまり効果のないものといえます。

定年・退職・解雇

禁止規定となっているものの、今までの裁判闘争によつて定年・退職に関する女性差別は無効となつているわけで当然のことといえます。しかし、罰則規定がないため、結局は今まで通りの長い時間とかけた裁判闘争を闘う他はないという訳です。何のための法律なのかと疑わざるをえません。

このように、均等法は女性の雇用におけるステータジを一部は禁止、他は努力義務というように分けて考えている訳です。このこと自体、全くおかしなことだと断じざるを得ません。なぜなら、女性の募集・採用から退職に至る全てのステータジにおいて全ゆる差別をトータルに禁止する、あるいはやめさせていくことこそが、女性の労働権を具体的に人権として保障することであるといえるからです。

まだ、力に雇用における差別を受けなくなる日は遠いようです。

「70才になると健康保険で大へんな差別を
うける」——老人保険法の改悪——

4月1日から健康保険法の一部が改定されましたがその中でも老人保険に関する部分でかなりの変化がありました。

老人保険といひのは御存知と思いますが70才の誕生日がきた月から、職業を持っていないに關係なくみんぱひとまじめにして適用される健康保険のことです。外来通院治療では今回はそれほど大きな問題はないのですが入院に関しては老人を長期間入院させていると次第に医療機関の収入が減っていくシステムになっていきます。

例えは注射をした場合……入院期間が一年以内のときは筋注・静注・点滴注射などをしたとき、それ以外の注射料が計算されますが、入院が一年を越えた老人には注射を何回しても一日の注射料は決まっています。(20点ニ〇〇円です)

老人には眼や耳、皮膚の病気を合併している人が多いのですが、入院一年までは眼薬をさす、耳の処置、鼻の処置、皮膚に軟膏をぬるなどそれ以外の処置について一定の処置料が計算されますが(各々10点一〇〇円)一年以上入院しているところんな処置をしても何個所しても一日につき10点一〇〇円です。

心電図、レントゲン、血液の検査についてもま

たく同様です。

入院料も大へんこまかくなっています。入院の日から二週間以内の入院料を一〇〇としますと(病院で三八五〇円、診療所で一九八〇円と差がある)二週以上一ヵ月以内七二、一ヵ月三ヵ月五六、三ヵ月六ヵ月以内三五、六ヵ月一年以内三二、一年二年以内三三、入院二年以上になると三二です。すなわち、二年以上になると入院料は半になるわけです。これは長期入院患者になるほど医療機関へ入る収入が減るわけですから、老人の入院をなるべく短く、少くしよりとするのは当然です。老人を病院から家庭へと経済的にしめ上げて押し出ろりとしていっているのです。(誰が↓↑厚生省↓国が)

老人が退院を言い渡され、其働きの主婦がやむなく仕事をやめたというよりな話が今から身近に多くなつてくると思われます。

私の母が父がもし入院した時、床ずれがあつておしっこをした時がーセがぬれて取替えてほしいと思つても「あなたは今日ほもう終つていますから」と冷たく言われることがあるとしてもこれは看護婦さんが竟地鬼のせいというばかりではありませぬ。

もし、手厚い看護と充分な医療がほしければ自分で手出しをすることが必要になるでしょう。内

科でも外科でもこんな会話が日常的になる日も遠くないと思います。

「△△さん保険ですと一カ月はかかりますし、効果も充分ではないかもしれませんね。保険はきかない薬ですが、こいれを使うと効果は抜群、一週間で治りますよ。少しお高くつきますけどね。どりしますか？」などと……。

保険診療にさまざまな制限が加えられてきています。今に保険医療は最低水準のもの、いい医療が受け付けられれば自費でという時代になるでしょう。何とかしなければ……と思ひ悩む毎日です。

(お知らせ)

乳癌の自己検診法(視診・触診)の資料があります。必要と思われれる方があればコピーをしてさし上げます。御連絡下さい。

長崎市油屋町一ー〇

A. 医院 A・T

T E L ()

コーヒーブレイク



☐ ミュンヘンからのお客さん B R さんが我家に一週間滞在。私の部屋、四畳半を整理して寝てもらったけど、一ハロセン牛を超える彼女には狭かったみたい。それにしても、一番気に入った食べ物、福田屋のウナギだったというのにはビックリ。

(N・F)

☐ 開業してもうすぐ六年です。色々なことがあつたよりな、あつという間のよりな、気がします。

(T・A)

☐ 春斗安結!

今年も又、低賃金でくらうことになりました。—— 淋しい。

(C・K)

☐ わが中小企業でも春斗直最中。執行部は、会社よりも、感謝知らずの組合員に怒っている。男社会の特権意識は、右も左も関係ない。アーエウウツ。(Y・K)

☐ 前号に同封いたしました会費納付書、また購読料を未納の方はなるべく早く納めて下さい。印刷代等の値上げで財政が苦しくなつておられます。(Y・Y)

発行所	長崎・女の会「女の会通信編集委員会」 長崎市中園町4-17(山田善子気付)44-8842	事務局	長崎市滑石1丁目4-1-601 (栗山洋子気付)56-7595	印刷	北印刷	No90
-----	---	-----	------------------------------------	----	-----	------